

1960 (昭和35年)
会員数30名

9代理事長
平田豊治



創立以来会員数が減少傾向であったが、9代平田豊治氏は、会員40～50名が理想であると増大方針をうちだした。その結果昨年片山氏の時23名であった会員も30名となり次第に盛り上がりを見せた。

この年新年合同祝賀会を催すと共に初めての試みとして全国各地のJCへ年賀状を送った。北は北海道から、南は鹿児島まで、その数156通にもぼっている。

2月20日のOBを囲む座談会では事業に対するアドバイスをを受け、3月2日の勤労青少年の門出を祝う会に参加校7校590名の生徒が出席、市長・教育長・職業安定所長等多くの来賓のもとで平和館で開催した。

4月8日例会を兼ねた観桜会を葵光園で行う。満開の桜の下で歌も飛び出す。愉快的な春の日であった。



春の一日葵光園での観桜会

4月16日高知で行われる四国地区会員大会参加の時、メンバー5名がタクシーで15日午後1時に出発したが、8時にやっと高知市に到着、前夜祭には間に合なかった。しかし八幡浜メンバーのみの楽しい前夜祭を行った。



4月16日高知市で行われた四国地区大会に出席。龍河洞を観光するメンバー

16日式典は土電会館文化ホールにて盛大に行われた。次年度、第8回大会は八幡浜で開催する事が決定した。17日には四銀グラウンドにて親睦野球大会が催され、我が八幡浜チームの菊池公孝投手を初め良く健闘し、午後は龍河洞・五台山・桂浜等の高知市内を観光し夜の10時高知市を後にした。

夏のレクリエーションの一つである家族会は、7月17日大島海水浴場へ。参加者同伴を含め50名が参加し、会員家族サービスに励んだ。

またこの頃よく野球をやっている。八幡浜税務署と愛宕中学校で、米国第7艦隊駆逐艦が八幡浜へ寄港した時その乗

組員と日米親善野球大会も行った。その夜米兵達と平和荘にて大いに飲んで歌った。スポーツの振興を呼びかけ続け、第8回少年ソフトボール大会を8月7日に小学校9校参加のもと松蔭小学校で開催した。

社会開発事業とし八幡浜駅前ロータリー建設資金募集の為、8月27日市公会堂にて150名の参加によりダンスパーティーを盛大におこなった。

10月10日第9回全国会員大会が四国で初めて、高松の地に開催された。尚、八幡浜JCより10名が出席、全国大会の感銘を強く受けた。

10月20日みなど祭り協賛・仮装行列は「旅芸人一座」と題し会員全員装し艶しい色気?を振り撒き市内行進した。

日本青年会議所国際知識普及小委員会より全国青年会議所にオペレーションフロー(国際文通)の依頼があり、八幡浜より女子高校生3名の応募があり、シンガポールの学生との文通が開始された。

第2回目である文芸春秋文化講演会は、今東光・松本清張を迎えた。これは当時随一の人気作家で、市民に大好評を博し会場から人があふれる程であった。

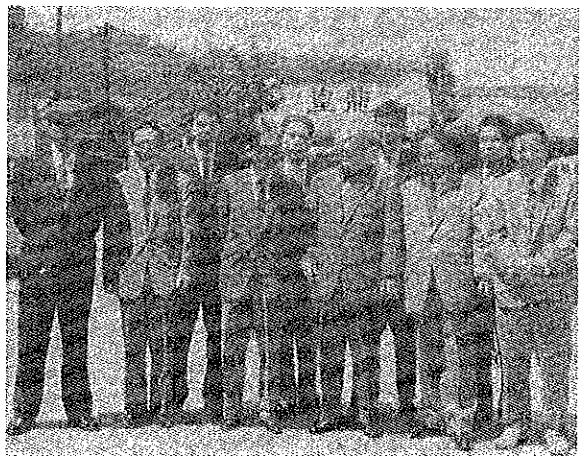
少ないメンバー数であったが、会員のチームワークはぴったりと取れ、夜遅くまで飲み遊んだ良き時代の一年間であった。



日本青年会議所大阪ワイルド大会で菊池公孝氏と平田理事長



高松で開催された第9回全国会員大会



文化講演会・今東光、松本清張氏を招いて

1961 (昭和36年)
会員数30名

10代理事長
梶田正義



設立10年という頃は30余名の気の合ったメンバーにより内部的にも充実し、いよいよ外部的活動へ積極的に取り組もうという気運に満ちていた。

1月1日の第4回新年合同祝賀会が約125名の参加にて中央公民館にてぎやかに催され、この年のスタートが切られた。

しかし何といっても昭和36年は第8回四国地区会員大会が八幡浜で開催されたことにある。1月の定時総会ではこの地区大会に向っての全員の意志統一のもと、特別委員会の設置がなされ、2月にはOBを囲む座談会が開かれ地区大会の盛りあがりをも更に強めたのである。といっても例年の事業を見逃した訳ではない。

3月の第4回勤労青少年の門出を祝う会を参加校8校、生徒数約620名にて東映で開催している。そして4月には例会を兼ね愛宕山にて観桜会もなされた。その間にも6月2日の会員大会に備えての基礎が築かれつつあったのは言うまでもない。

昭和29年に第1回大会を経験していたものやはり大変な準備であったようだ。会員の協力で式典と懇親会の準備がなされていたものの数日前には会場である愛宕山の公会堂の飾り付けにかけ、前日には料理を直前理事長の平田豊治氏が料亭を経営されていたので頼んでいたもの、JC会員もなれぬ手つきで野菜を切り鉢に盛り、大変であったようだ。

それを当日会場へ何度も運んだのである。

式典は6月2日午後1時から始められ日本JC会頭・山崎富治氏、北山三幸協議会長はじめ各JC理事長、会員約80名並びに八幡浜市長、野本吉兵衛氏をはじめ商工会議所会頭等有志の方々、JCメンバーで総勢約200名の参加であった。

まず司会者の進行で理事長の歓迎挨拶、JC会頭挨拶、市長挨拶と重々しい中にも順調に式典が終わり懇親会までの2時間を西南開発(スモークミート)や丸三産業の工場見学をおこなっていただいた。その間に大急ぎで手作り料理作品をテーブルに配膳し4時より懇親会開宴となった。

日本JC会頭、山崎氏の乾杯の音頭で酒宴に移り、にぎやかな酒盛りが始まりアルコールもだんだんとしみわたってくると、当地の唐獅子を見物していただき、その後は各JCの芸達者が入れ替り立ち替り自慢のノドや踊りを披露し、最後に全員で手を取り合せて「若い我等」を合唱して散会し、夜の八幡浜情緒

を味わっていただく為にそれぞれグループに別れて街へくり出した。この懇親会は四国の会員八幡浜はすごい、素晴らしいと強く印象づけたようであり後年八幡浜JC創立15周年、20周年大会に各地へ勧誘に行った時、八幡浜の主催する大会は素晴らしい、ぜひ出席すると言ってくれたJCマンは大変に多かったようである。

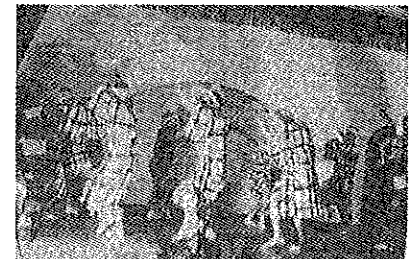
この第8回四国地区会員大会の開催にあたり、八幡浜青年会議所創立10周年記念をどうするのかと言う問題が起ったが、結局四国地区会員大会に含めて、一緒にしようとして一般市民を含めた地区会員大会であった。この事業も無事終了しやや落ちつきを取り戻した8月には第9回少年ソフトボール大会が市内小学校9校参加のもと松蔭小学校で開催された。

またこの夏、徳島市では観光名物の阿波踊りを盛んにすべく宣伝活動を行っていたらしく徳島JCより案内参加依頼が届き理事長他十数名が、四国の東西両端の友情を深めべく徳島へ乗り出し四国各地のJCマンと共に、何と3日間も阿波踊りを踊り続けたそうだ。現在の阿波踊りの隆盛に青年会議所も一役買っているのである。

また10月には市内小中学校に募集し児童図画展を中央公民館にて開催し、児童教育にも貢献し、みなど祭りでは仮装行列に参加し「アラビアンナイト」で市民を爆笑の渦に落とし入れた。

梶田理事長が就任した際、会員に要請した事柄があった。当時、理事長は何か一つ自分のカラーを打ち出す慣例があった。梶田氏は、その一つとして「JC道楽会」の悪評を返すべくJC各種会合後は二次会位までにして余り飲み廻らないようにしようと言うことであった。現に当時は行事の後の飲む機会が多く午前様が多かったからである。こうして10周年の頃から、それまでの八幡浜内部での同士の友情とか相互の親睦と言ったものが重視されていた時代から対外的に目を向け、他JCとの交流を盛んにし、八幡浜市のそれぞれの人達との接触を密にし、八幡浜市における一つの重要な団体となる。そういった方向に進み始めていくのである。

第8回日本青年会議所四国地区大会の懇親会



第8回日本青年会議所四国地区大会